

**英語****【解答】**

I	問 1	問 2	問 3	問 4	問 5
	d	b	c	a	d
II	問 1	問 2	問 3	問 4	問 5
	d	a	a	d	b
III	問 1	問 2	問 3	問 4	問 5
	c	c	b	c	b
IV	問 1	問 2	問 3	問 4	問 5
	a	b	d	d	b
V	問 1	問 2	問 3	問 4	問 5
	b	a	a	a	c
	問 6	問 7	問 8	問 9	問 10
	c	d	a	b	b
VI	問 1	問 2	問 3	問 4	問 5
	d	b	a	c	c

---

## 【学習アドバイス】

本学の入学試験は、2科目を選択して受験する形式を採り、試験問題は2科目合わせて100分である。したがって、各科目にかけるバランスにもよるが、平均的には50分程度が解答時間である。本年度の英語問題は、Ⅰ. 会話問題、Ⅱ. 単語問題、Ⅲ. 長文問題、Ⅳ. 長文問題、Ⅴ. 文法問題、Ⅵ. 整序問題の6題構成となっており、試験時間に対して十分に解答できる出題量だといえる。

それでは、各大問の特徴を見た上で、対策を考えていこう。

Ⅰ. 会話問題は、口語特有の表現やイデオムの知識を問う場合があるが、本学の問題はそのような知識を問う問題ではなく、文脈を理解した上で導かれる応答を予測させる問題が主体である。よって、解答する際は、問題の直前のみを読むのではなく、最初から最後までの流れをしっかりと考慮しなければならない。特に、後文とのつながりに着目するようにしよう。会話問題に対処するには、会話がどのような場面や状況で行われているのか、どのような応答が求められているのかを、文の流れを正確に理解することで導き出すという練習が必要である。

Ⅱ. 単語問題は、単純に単語の意味を問うだけの問題形式ではなく、3行程度の英文内での空所補充という形式である。そのため、語彙力はもちろんのこと、Ⅰ. と同様に、文脈を理解する力が必要である。本年度は動詞・形容詞・名詞が出題されたが、品詞を問うよりも文脈を考慮した上での意味による判断が求められる形式であった。選択肢の語彙のレベルも、標準的な単語集を1冊仕上げることで対応できるレベルであるといえよう。単語を覚える際は、単語と意味の一対一対応で覚えるのではなく、それぞれの単語の品詞や、使い方、コロケーション（語と語のつながり）なども併せて確認しよう。また、文章内での空所補充ということ念頭に置き、単語集の例文にも目を通しながら着実に語彙力をつけていくことを目標としよう。

Ⅲ. Ⅳ. 長文問題は、400字程度の英文がそれぞれ出題される。語彙推測問題・適語挿入問題・言い換え選択問題・内容一致問題など様々な観点から英文の理解度を図る問題形式である。問題形式は多岐に及んでいるが、英文自体は比較的易しい語彙を用いて書かれており、また、難しめの語彙には語注が付してあるため、読みやすい文章であるといえる。語彙推測問題・適語挿入問題に関しては、Ⅱ. と同様に、標準的な単語集を仕上げることで対応できる。本年度は、基本的な熟語やディスコースマーカーが出題されており、これらは文章を読む上でも文法・整序問題を解く上でも必要な知識であるため、使い方や役割にも注意して覚えておこう。次に、内容一致問題に関しては、文章の要点が理解できているかを問う素直な問題となっているので、選択肢とその対応箇所を比べ、間違っている箇所を確認し、誤った選択肢を消去するという練習をすることが大切である。以上の点を踏まえ、日頃から英文を読んで正確に理解するという実践的な演習を積んでおこう。

Ⅴ. 文法問題は、準動詞・関係詞の出題の比率が本年度は高めであったが、時制や仮定法なども含み、幅広い範囲から出題されている。高校で使用する教材や参考書で構わないので、一通りの基本的な文法を仕上げておく必要がある。文法は表面的に覚えるのではなく、理解することに努めると初見の問題にも難なく対応できるようになるであろう。さらに、接続詞や副詞の語法など、高校英語における基本事項を確実に身につけておくといよい。

Ⅵ. 整序問題は、与えられた日本文に対応する英文中の6語を並べかえて完成させる問題である。特殊な構文が出題されるのではなく、基本的な文法問題の範囲を出るものではない。よって、Ⅴ. と同様に、高校英語における基本的な文法・語法・熟語を押さえておくことが求められている。また、英作文用の基本的な例文を暗記し、英文の基本的な構造を頭に入れておくと、さらに取り組みやすくなるであろう。整序問題が苦手な受験生は多いが、品詞の役割を確実に理解し、与えられた語（句）が文中でどのような役割をするかを考えながら問題の演習を積むとよいだろう。

全体を通して、高校英語で身につけた基本的な知識の定着度を丁寧に測る問題となっている。このような単語の知識、文法の運用能力、文章を読む力は、大学入学以降の勉強においても必要不可欠なものである。まずは過去の問題を解き、自分の知識の抜けている部分や苦手な問題形式を確認し、早めに対策を立てよう。日々地道な努力を続けていけば、結果は必ずや伴うであろう。健闘を祈る。